

2026.

4

# 海外トピックス

## 静岡県海外駐在員報告

静岡県企画部地域外交課



ベトジェットエア本社訪問（ベトナム・ホーチミン）

### 東南アジア

ベトジェットエア 静岡-ベトナム・ハノイ線の新規就航！

タイの和食店で静岡フェア開催

### 中国

中国経済はどうか？全国人民代表大会で新5か年計画（2026～2030）を発表

上海で日本観光・物産のプロモーションを再開！！来場者の反応は？

### 韓国

ソウルの地下鉄車内にみるデジタル社会の深化とインフラ環境

WBCの熱戦と日韓放送事情について

### 台湾

静岡茶ブランディングセミナーを開催

「東日本大震災15年・台湾自転車一周」で日台交流

# 東南アジア駐在員報告

駐在員：村川 未帆

## 経済

### ベトジェットエア 静岡ーベトナム・ハノイ線の新規就航！

2026年4月28日から、ベトジェットエアによる静岡ーハノイ線の運航が開始される。本路線は、富士山静岡空港開港以来、静岡とベトナムを結ぶ初の定期便であるとともに、静岡と東南アジアを結ぶ初めての定期便である。県では、本路線の就航を契機に、利用促進と誘客拡大に向けた取組を進めている。

その一環として、3月13日に平木副知事がベトジェットエア本社を訪問し、就航決定への謝意を伝えるとともに、インバウンド・アウトバウンド誘客に向けた効果的なプロモーション等について意見交換を行った。

県ではこのほか、就航に向けた現地でのPR活動として、3月初旬に開催されたジャパンベトナムフェスティバルに本県ブースを出展し、静岡ーハノイ線をPRするとともに、現地旅行会社への営業活動も実施した。来場者からは静岡を訪れてみたいとの声が多く聞かれ、旅行会社からも、富士山、いちご狩り、お茶体験等、静岡ならではの観光素材に高い関心が示され、ニーズに応じた商品造成を検討したいとの回答があった。

今後も、ベトジェットエア、静岡県、静岡空港の三者が連携し、利用促進と定期便の継続に向け、ベトナムからのインバウンド需要の取り込みに引き続き取り組んでいく。



## 経済

### タイの和食店で静岡フェア開催

日本食人気が高く、外食文化が広く根付くタイにおいて、2026年3月16日から29日まで、バンコク市内の和食店3店舗で、県産食材の魅力を発信する「静岡フェア」を開催した。本フェアは、県産食材の認知度向上と消費拡大に加え、本県への誘客促進を目指して実施したものである。

フェアでは、イチゴ、抹茶、わさび、マグロ、金目鯛、うなぎといった県産食材を使った特別メニューを提供した。あわせて、SNSによるメニュー紹介、使用食材の産地紹介動画や本県観光情報の発信、店舗内での観光ポスター掲示やパンフレット配布を行い、静岡の食と観光の魅力を一体的にPRした。

会期中にフェア実施中の和食店を訪問したところ、タイではうなぎや抹茶の人気が高く、県産食材を使った特別メニューは大変好評を博していた。

今回のフェアを通じて、県産食材のおいしさや魅力を伝えるとともに、本県そのものへの関心喚起にもつなげることができた。個人旅行客の多いタイ市場においては、旅行先の選択に当たり個人の関心や嗜好が大きく影響することから、食を通じて静岡の魅力を発信することは、本県への関心喚起や誘客促進に有効であると考えられる。今後も現地店舗等と連携しながら、静岡県の認知度向上と誘客促進に努めていく。



紅ほっぺと静岡抹茶のモンブラン

# 中国駐在員報告

駐在員：石川 祐介

## 政治

### 中国経済はどうか？ 全国人民代表大会で新5か年計画(2026～2030)を発表

3月5～12日に北京市で全国人民代表大会(全人代)が開催された。全人代は、指導者(国家首席等)の選出、重要法案の制定、政府予算案の決定等を行う意思決定機関だが、中国は憲法序章で「国家は中国共産党の指導を仰ぐ」と明記され、実質的に共産党の方針が発表・承認される場で日本(国会)とは大きく位置付けが異なる。今年が5年ぶりの中期計画(新5か年計画：2026～2030年)が発表されたことから、経済分野のトピックを紹介したい。

まずは、今回の新5か年計画で強調された言葉が「新質生産力(新たな質の生産力)」だ。これまで新産業・次世代産業を成長のエンジンと強調してきたが、足元の経済情勢を踏まえ従来型産業の強化に立ち返り、製造業など既存産業の技術開発、中小企業のAI化(クラウド・ビッグデータ活用)等を通じて、国内企業全体の競争力の底上げに重点を置いている。

また新産業分野では、集積回路やバイオ医薬等における「基礎技術」を重視するほか、次世代産業分野では、次世代エネルギー、量子通信、ロボット、ブレイン・マシン・インターフェース(脳と機械を接続する技術)等の育成に注力するとの方向性を示した。

共産党総書記の習近平氏は、2027年秋の共産党大会で4期目を迎える可能性が高く、今年から始まる新5か年計画の実現を通じて、再任にふさわしい成果・実績を積み上げていくと見られる。一方、2026年のGDP成長率(目標値)は4.5～5%と2025年実績の5%を下回る見込みで、いかに成長率を維持・上昇させられるかに注目が集まっている。

## 経済

### 上海で日本観光・物産のプロモーションを再開!!来場者の反応は？

3月7～8日、中国事務所は日系ショッピングモール「ららぽーと上海金橋」で開催された日本観光・物産プロモーションイベント(匠新生活嘉年華)に出展した。

昨今からの日中関係の悪化に伴い、現地では昨年11月末以降の商業施設等での一般消費者向け日本イベントの自粛が続いていたが、徐々に各地で再開の動きが出始めており、同施設には両日で66,000人の来場者が訪れた。



開催前には反日感情の高まりを懸念する声もあったが、来場者からは「日本のマルチビザ(取得には20～50万元≒約460～1,150万円の金融資産証明が必要)を持っており、特段の影響なく日本を旅行している」、「子供の教育のため小さい頃から日本の社会システムを見せたい」、「春節に日本に行ったが、円安で割安感があるか期待していたものの、物価上昇や路線縮小による航空券の値上がりで思ったほどお得感はなかった」など、政治と経済を分けて考える上海の上中流層ならではの日本観光に対する意見が寄せられた。

中国における日本路線の復便には一定の期間を要する見込みだが、県中国事務所では、政治的な影響の小さい上海ほか沿岸部のFIT(個人旅行者)に向けたプロモーションに注力しており、本県の認知度向上と誘客に向けた取組を進めている。

# 韓国駐在員報告

## 駐在員：石ヶ谷 彰英

### 社会

#### ソウルの地下鉄車内にみるデジタル社会の深化とインフラ環境

ソウルの地下鉄に乗り込んでいると、静岡や東京と比較して電車内でのスマートフォン利用率が高いように感じる。理由を考えてみた。

第一の理由は、走行中でもストレスを感じさせない通信環境の強固さだ。

ソウルの地下鉄は、トンネル内を含め全線で5Gネットワークが備えられている。各携帯キャリアが車両ごとに専用のアクセスポイントを設置し、5G回線の中継した超高速Wi-Fiを提供しているのだ。これにより、日本の地下鉄で経験するような「駅間やトンネル内での瞬断」がほぼ起こらない。動画視聴やオンラインゲームが移動中も途切れないため、乗客がスマホから目を離さずに過ごせる環境がハード面から支えられている。

次の理由は、超デジタル社会の韓国では、スマホが生活を進めるため不可欠になっていることだ。ソウルでは、人気の飲食店に行く際、店先で並ぶのではなくスマホアプリで「ウェイティング（順番待ち）」を済ませるのが一般的である。電車に乗っている間にアプリで予約状況をチェックし、入店可能な時間を見込んで集合時間と場所を調整する。そして目的の駅に着くまでの隙間時間に動画配信サービスやSNSをチェックし、人気メニューや注文方法を把握する。つまり、スマホを見れば、次の行動に向けた準備が万全に整うのだ。

そして第三の理由は、韓国の鉄道の構造的な側面にあるものと考えられる。ソウルの地下鉄は、日本の新幹線と同じ「標準軌（1,435mm）」を採用している。一方、JR在来線や日本のローカル私鉄のほとんどは、それより30cm以上幅が狭い「狭軌（1,067mm）」だ。

線路の幅が広い分、車両の安定性が高いためか、立っただけでも揺れが少ない。この走行安定性があるからこそ、吊革を掴まずに両手でスマホを操作できる安心感が生まれ、結果として車内のスマホ利用率をさらに高めている一因となっているのではないだろうか。

「どこでも繋がる通信環境」「生活に必要なスマホの存在」、そして「スマホの画面に集中できる安定した走行性能」。これらの要因が、ソウルの車内風景を象徴的な「スマホ空間」へと深化させているのではないだろうか。

### 行政

#### WBCの熱戦と日韓放送事情について

東京での熱戦が大いに盛り上がったワールドベースボールクラシック（WBC）であるが、韓国チームがオーストラリアとの対決においてイ・ジョンフ外野手のファインプレーで劇的な勝利を遂げ、実に17年ぶりの8強進出を決めた時、韓国国内は言うまでもなく日本の視聴者も大いに沸き立った。また、それに先立つ日韓戦も実に印象的な好ゲームであった。

日本ではこれらの試合の生中継を視聴するためには、特定の動画配信サービスに加入する必要があったのだが、韓国では地上波の3大ネットワークがいずれも試合を生中継しており、特に手続きや申し込みをすることもなく自宅で観戦することができた。

このような違いが生じた背景には、韓国の放送法における「普遍的視聴権」という概念がある。同法では、国民的関心の高いスポーツイベントは公共的価値を持つものとされ、広く国民が視聴できるように求めている。このため、韓国でも国内資本の動画配信サービス会社がWBCの独占配信権を保有しながら、地上波局と交渉し並行放送が実現したのである。

しかし、今年6月のFIFAワールドカップについては、特定のケーブルテレビ局が放送権を得ている。競争性が高い同局と地上波局との交渉が進まない中、従来と異なる視聴方式に慣れない層でも気軽にアクセス可能な放送環境を整えるべきとの声が、政府をも動かしている。

今回は日韓ともにベスト8までとなったが、国際的な大会がもたらす感動は、スポーツ文化の発展や相互理解の促進に寄与する。デジタル化、独占化が進む現代において、感動をいかに共有し続けるか。日韓の放送事情はその課題を我々に突きつけているのかもしれない。

# 台湾駐在員報告

駐在員：市川 美奈子

## 行政

### 静岡茶ブランディングセミナーを開催

弊所では3月7日、台北市内のカフェで「静岡茶ブランディングセミナー」を開催した。台北市で和食レストラン兼カフェ「京町山本屋」を営む山本氏を講師に招き、静岡県産の緑茶、玄米茶、和紅茶の特徴や淹れ方をじっくりと解説いただくセミナーだ。併せて、弊所スタッフによる静岡県の概要紹介と、台湾人の人気旅行ブロガーによる静岡県のモデルコース紹介も行った。

台湾では「静岡は、お茶で有名ですよ」と言われることが多い。ところがちょっと話を深掘りしてみると、二言目には「抹茶が有名ですよ」と言われることがよくある。その理由は、台湾の大手飲食チェーンやカフェが「静岡抹茶〇〇」という商品を多数展開しているためだ。たとえばモスバーガーでは「静岡抹茶オレ」、ロイヤルホスト（台湾でのブランド名はロイヤルパーク）では「静岡抹茶ロールケーキ」などという具合だ。

このように「静岡」という名を大々的に冠してもらえてありがたいと思う一方で、「静岡抹茶〇〇」という括り方では、静岡のお茶の多様性が正しく伝わっていないのでは、という一抹の不安があった。今回のセミナーを通じて、静岡が日本一の茶どころであることと、「抹茶」のみならず多種多様なお茶を楽しめることを参加者に正しく伝えられたのではないかと思う。

また、今回のイベントは、参加者から費用を徴収する有料イベントとして実施した。セミナーの有料化は初の試みであったが、40名分のチケットは即日完売となった。また、有料としたことで熱心な参加者が集まり、セミナー中も参加者がこぞって講師に質問するなど、非常に活気に満ちた雰囲気であった。今後のセミナー運営に際して、多くの気づきを得られたイベントとなった。

【講師に熱心に質問する参加者】



## 社会・時事

### 「東日本大震災15年・台湾自転車一周」で日台交流

3月7日朝8時30分、台北市内の総統府前から、台湾一周を目指すサイクリストたちが意気揚々と走り出していった。「東日本大震災15年・台湾自転車一周」と銘打たれたこのイベントは、東日本大震災から15年目を迎えるにあたり、台湾から日本への支援に対する感謝を伝えるために企画されたものだ。日本人有志が企画した8泊9日のこのイベントには、日台双方のサイクリスト計33名が参加した。参加した日本人のうち、台湾在住の方は3人だけで、ほとんどが日本からの参加者だというから驚いた。静岡県から参加した方もいたという。

台湾では、「真の台湾人になるためには、成し遂げねばならないことが3つある。1つは玉山を登ること。1つは日月潭を泳いで横断すること。そしてもう1つが、自転車での台湾一周」と言われている。それぐらい、自転車での台湾一周は、サイクリストにとって象徴的かつ憧れのイベントだ。

台湾で仕事をしている者として、台湾を象徴するような大きなイベントを通じて日本と台湾の絆を深められたことを、非常に嬉しく感じた。



【出発式の様子】

## 静岡県 海外駐在員事務所

### ●東南アジア駐在員事務所（シンガポール）

住所	12 Eu Tong Sen Street, #04-168 The Central(S0H02), Singapore 059819		
電話	+65-6221-0432	FAX	+65-6221-0477
URL	<a href="http://shizuoka.sg/">http://shizuoka.sg/</a>		
E-mail	fujinokuni@shizuoka.sg		

### ●中国駐在員事務所（上海）

住所	上海市長寧区延安西路 2201 号 国際貿易中心 2611 室		
電話	+86-21-6275-0909	FAX	+86-21-6275-8856
URL	<a href="http://www.shizuokash.com">http://www.shizuokash.com</a>		
E-mail	ilfjs@shizuokash.com		

### ●韓国駐在員事務所（ソウル）

住所	3rd Floor, 50, Eulji-ro, Jung-gu, Seoul, Korea 04534(クレアソウル内)		
電話	+82-2-733-5681	FAX	+82-2-732-8873
URL	<a href="http://shizuokaseoul.com/">http://shizuokaseoul.com/</a> <a href="https://blog.naver.com/goshizuoka">https://blog.naver.com/goshizuoka</a>		
E-mail	shizuoka@clair.or.kr		

※2026年4月に自治体国際化協会（クレア）ソウル事務所に移転しました

### ●台湾駐在員事務所（台北）

住所	台北市中山区南京東路二段 137 号 連邦商業ビル 13 階		
電話	+886-2-2508-1515	FAX	+886-2-2503-5303
URL	<a href="http://www.shizuoka.org.tw/">http://www.shizuoka.org.tw/</a>		
E-mail	shizuoka.tw@gmail.com		

### <日本での連絡先>

静岡県 企画部 地域外交課

住所：静岡市葵区追手町 9-6

電話：054-221-2572 FAX：054-221-2542

E-mail：kokusai@pref.shizuoka.lg.jp